

## 巻頭言



### ドイツ躰の絵本 “ボウボウアタマ — Der Struwwelpeter”

伊藤 光 昌\*

戦時中幼年期を迎えた私の手元に当時あった本といえば、遙か年上のいとこ達の読んだ数冊と、父の訳した“ボウボウアタマ”第一版（1936年）のみであった。絵の「素人くさい素朴な稚拙さと解り易さ」<sup>1)</sup>と残酷さを備えたボウボウアタマは、多分幼心に新鮮さと怖いもの見たさの魅力を感じさせたのであろう。繰返し繰返し頁を捲り今なお全物語を諳んじている。

ドイツへ仕事で赴任の際、私は、娘と息子の為にこの本を躊躇なく持参した。そして、子供達の遊び友達を通じてこの絵本が今なお幼児躰の必読書として、ドイツの家庭で広く読まれている事を知り驚きと感動を覚えた。不潔はいけない、動物を虐めるな、火遊びをするな、人種差別をするな、食物の好き嫌いをするな、指を嘗めるな等の内容から構成されている。ドイツの家庭で母親は、子供の物心付かない内から、毎晩この本を読んで聞かせる。それにより、幼子はその物語と絵を結びつけて因果関係を記憶する。母親は、子供が言う事を聞かないと、夫々の物語のタイトルを言う。例えば、指を嘗める子には、「指嘗め小僧 — Daumenlutscher — の様になるよ」と言う、子供は、物語と絵を一瞬に思い浮べて口から指をはなす。

父伊藤庸二（1901-55）は、ドレスデン工科大学に留学中1927年にこの本に遭遇し翻訳、1936年に出版した。作家は、ドイツ フランクフルト アム マイン市出身の精神科医ハインリッヒ ホフマン（1809-1894） — Dr. Heinrich Hoffmann — である。本来彼の子供の為の手作本であった物を、友人達の強い勧めで1845年に出版した所、瞬く間にドイツ語圏全土に広がり、1890年代初頭には1万版を数えて以降版数は数えられていない。又、殆どの国の言葉に訳されて、英語版は、マーク・トウェン（1839-1910） — Mark Twain — が1902年に手掛けている。

1981年ホフマン生誕地フランクフルト アム マイン市に医学者<sup>2)</sup>及び文学者<sup>3)</sup>としての功績を後世に残す目的でハインリッヒ ホフマン協会が設立された。私は、父が翻訳した関係から、ホフマン家及び関係者との接点が生じ、協会の設立委員、設立後は理事としてこの事業に従事することになった。主目的は、同時に設立された“ボウボウアタマ博物館 — Struwwelpeter Museum”の運営である。その後、協会・博物館は、形を変え乍も市のシンボルとなり現在に至っている。

ハインリッヒ ホフマンは、若い頃政治家としても活動、フランクフルト準備議会のメンバーとして、1848年5月18日のパウルス教会で開催された憲法制定国民議会に出席した。

---

\*（助）海洋化学研究所理事長、（株）ハーモニック・ドライブ・システムズ代表取締役会長

この議会の失敗を彼は、4行の詩にまとめている。

1848年の人々：（コワルスキー雪訳）

Die 48er:

ドイツ統一を議論するために集まってきた諸君 Für deutsche Einheit kamet ihr zu tagen

各人大いに自分のなすべきことを果たした Und redlich tat ein jeglicher das Seine

「自分」のことを！ そう、それが嘆かわしい Das Seine! Ja, das ist's, was wir beklagen

皆がそうしたから公益が崩壊したのだ Denn in die Brüche ging das Allgemeine

以降ハインリッヒ ホフマンは、政治から一切身を引き、医者の仕事に専心したという。

## 註

- 1) 飯田善國（1923-2006）彫刻家・画家・美術評論家・随筆家・詩人 日本語版「ぼうぼうあたま」後書より
- 2) 精神病改革者としての功績
- 3) 童話作家，随筆家，詩人